

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
作業療法演習 I-2		必修	1	2	後期	
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー			
浅野 克俊 他	C313	k.asano	木曜日 10:30~12:30			
授業の目的・概要	見学実習や専門基礎科目、作業療法演習 I-1 で学んだ知識や技能をもとに、映像や紙面による事例から評価計画立案ができるようになることが目的となる。また、各領域の評価 (検査、測定など) を適切に実施できることも目的とする					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	<input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他 (<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク)			
学習上の助言	見学実習や専門基礎科目、臨床医学系科目で学んだ知識も必要となるため、授業で配布されたプリント・教科書を復習しておくことが望ましい。					
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版 / 編：能登 真一、山口 昇、玉垣 努、他：医学書院 / 2024					
参考書	ICF 国際機能分類—国際機能分類改訂版—/編：障害者福祉研究会/中央法規出版/2008 標準作業療法学 作業療法臨床実習とケーススタディ 第3版 / 編：濱口 豊太：医学書院 / 2020					
外部教材	特になし					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	作業療法士として必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。			HSU(2)(4)(5)、RH(1)~(3)		
②	対象者の疾患・症状などに応じて適切な作業療法評価計画が立案できる。			HSU(2)、RH(2)(3)		
③	対象者の疾患・症状などに応じて適切に検査・測定を実施できる。			HSU(2)、RH(2)(3)		
④						
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	オリエンテーション 当科目の説明について、客観的臨床能力試験 (OSCE) について	講義	事後：説明内容を確認する 後期学習計画の立案	1		
2	作業療法評価計画について基礎的知識を学ぶ	講義・演習	事前：各評価学、ICF の復習 事後：資料・教科書の復習	1		
3	各領域の作業療法評価計画立案の実践 ① (身体障害領域：亜急性期の事例検討)	各教員について演習	事前：各評価学、ICF の復習 事後：資料・演習内容の復習	1		
4	各領域の作業療法評価計画立案の実践 ② (身体障害領域：亜急性期の事例検討)	各教員について演習	事前：各評価学、ICF の復習 事後：資料・演習内容の復習	1		
5	各領域の作業療法評価計画立案の実践 ③ (老年期障害領域：生活期の事例検討)	各教員について演習	事前：各評価学、ICF の復習 事後：資料・演習内容の復習	1		
6	各領域の作業療法評価計画立案の実践 ④ (老年期障害領域：生活期の事例検討)	各教員について演習	事前：各評価学、ICF の復習 事後：資料・演習内容の復習	1		
7	各検査・測定の実践的な知識・技術を学ぶ	各教員について演習	事前：実技練習 事後：実技の復習	6		
8	<実技実習> ・7グループ程に編成する。					
9	・各グループはその週の担当指導教員から提示された実技課題に取り組む。					
10	<実技課題>					
11	徒手筋力検査 (MMT)、関節可動域測定 (ROM-T)、バランス検査、高次脳機能検査、老年系検査、精神系検査、発達系検査					
12						
13	実技練習の課題のまとめ	各教員について演習	事前：実技練習 事後：実技の復習	1		
14	OSCE 1回目	試験	事前：実技練習	1		
15	OSCE 2回目	試験	事前：実技練習	1		
試	期末試験は行わない。					

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	40	0	0	0	100
総合 能力 指標	知識・技術力	20	10	0	0	0	30
	思考・推論・創造する力	15	10	0	0	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	5	0	0	0	5
	発表・表現伝達する力	5	5	0	0	0	10
	コミュニケーション力	10	0	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	0	0	5
	問題を発見・解決する力	10	5	0	0	0	15
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	14,15 回目に OSCE を実施する。一般課題・専門技能課題のチェック項目の総合得点で評価を行う。合格水準に達しない場合は再試験対象とする(OSCE 1 回目 30%、2 回目 30%)。				OSCE 試験後に試験担当教員がフィードバックを行う。
	②						
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	【3,4 回目】 身体障害領域（亜急性期）の事例を用いて所定の様式に評価計画を記載する。レポートの取り組み姿勢や内容についてルーブリックをもとに評価する(20%)。				事例検討の演習において、指導教員からその場でフィードバックする。
	②	✓					
	③		【5,6 回目】 老年期障害領域（生活期）の事例を用いて所定の様式に評価計画を記載する。レポートの取り組み姿勢や内容についてルーブリックをもとに評価する(20%)。				
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	志茂 聡、小沢 健一、榎田 哲弥、小川 麻里子、向山 秀、渡辺 俊太郎、加藤 智也（非常勤講師）						
教員の実務経験	担当教員は 10 年以上の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	配布資料の内容と併せて、臨床を通して得た知見に基づき作業療法に必要な基本的な知識や考え方を教授する。						
そ の 他	授業形態 ：この科目は登校による面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。						